

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
46

振興協議会だより

【発行日】 令和2年 12月 23日
【発行】 苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】 025-765-1600



新トレッキングルート・前倉～鳥甲牧場～矢櫃村跡まで歩きました

晩秋を迎える11月初旬。前号（45号）掲載の整備済みトレッキングルートを、関係者7名で実際に歩いてみました。出発地点へ向かう車中から遠くに見る苗場山頂は、雪化粧で白く染まり、早くも冬の訪れを感じる光景でした。前倉トド展望台に到着し、トレッキングスタートです。林道はブナやモミジの紅葉、落ち葉の絨毯の上には初雪が降り積もり、美しい別世界でした。

まずは鳥甲牧場付近を目指し比較的ゆるやかなコースを進みます。途中、沢を数箇所渡りスタートから約1時間半後、右側に面した鳥甲牧場の広大な跡地付近に到着しました。ここから一旦長野県道507号へ出るため、スギ林の中をしばらく歩きます。県道507号へ出て立看板の案内方向へ10分程歩くと目的地「矢櫃村跡入口」の立看板の場所に着きます。時刻は正午過ぎでこの付近にて休憩をとりました。小春日和の暖かさが心地良く、フィールドでの昼食はいちだんと美味しく感じました。休憩を終えて目的地を目指しトレッキング再開です。「矢櫃村跡入口」の看板からコースへ入り、雑木林の道をしばらく下ります。樹齢200年位の大木、赤や黄色に色づく木々に目を奪われ、目線が上へ行きがちですが傾斜になっている箇所も多いため足元に注意して歩きます。40分程で目的地・矢櫃村跡へ到着しました。跡地には供養塔が建ち、付近には中津川が流れています。この地にかつて村と対岸を結ぶ矢櫃橋が架かっていましたが平成18年の豪雪の際に崩壊し、現在は吊り橋のワイヤーが残っています。景観として楽しむ事が出来ませんが、断崖ですので観賞する際は注意が必要です。少し足を延ばして、案内看板より川原へ下りてみました。険しい箇所はロープを伝い、岩場に足をかけ安全を確認しながら下りて行きます。川原での景色は、山側から流れ落ちる小さな滝や下から見る矢櫃橋の名残がとても印象的でした。今回のコースは、休憩時間を含めゆっくり歩いて約5時間の行程となりました。初心者の方も、マイペースで歩く事が出来ます。

今後、開削予定の穴藤の峰―高野山村跡―あずき峠―前倉トドまでのコースですが、妙法牧場との協議も終了し、令和3年より整備に入ります。中津川左岸トレッキングルート全開通に向けて、これからも進捗状況をお伝えしていきます。



初雪の前倉展望台付近



今も残る矢櫃橋のワイヤー



芦ヶ崎小学校3・4年生が糸魚川ジオパークへ行ってきました

芦ヶ崎小学校3・4年生は総合学習のテーマにジオパークを掲げ、これまで出前授業や、エリア内のジオサイトを巡ってジオパーク学習を展開しています。11月24日(火)、初の試みで他のジオパークについて学ぶため、新型コロナウイルス感染症の対策を講じた上で「糸魚川ジオパーク」を訪れました。午前中、フォッサマグナミュージアムに到着。子ども達は早速、施設前の噴水周辺に展示された岩石に注目し、石の名前や特徴をメモしていました。入館後、学芸員の方からスライドやクイズを交えた説明を聞いた後、苗場山麓ジオパークがフォッサマグナの中に含まれていることや大地の成り立ち、ヒスイや様々な化石、岩石などを見学しました。その後、敷地内の「化石の谷」という所で化石発掘体験を行い、約3億年前の海洋生物の化石をハンマーで石を割りながら探しました。午後は、2021年2月に国の名勝天然記念物に指定となる糸魚川・静岡構造線を観察できるフォッサマグナパークを見学しました。パーク内では海底火山活動の痕跡である枕状溶岩を見たり、約4億年前の地層と約1600万年前の地層の境を見ることができました。

子ども達はそれぞれ、興味深く熱心にメモを取り、糸魚川ジオパークについて学びました。今後は、苗場山麓ジオパークと比較しながらの学習が展開される予定です。



糸魚川フォッサマグナパークにて



苗場山麓ジオパーク特産商品 大地のたからもの

商品開発部会では、苗場山麓ジオパークの地域産品の開発・仕組みづくりと連携し、情報発信をするための「特産商品認定制度」を立ち上げました。10月28日に第1回目の認定審査会を開催し、11社13品の苗場山麓ジオパーク特産商品が認定されました。11月11日には認定式が行われ、苗場山麓ジオパーク振興協議会会長より認定証が授与されました。認定期間は2年間となっており、2年おきに更新認定・新規認定審査を行う予定ですが、新規商品の申請につきましては随時受け付けますのでご相談ください。

青い幟が認定商品を販売・提供しているお店や企業の目印です。

お問合せ先 苗場山麓ジオパーク振興協議会 商品開発部会事務局
(津南町役場観光地域づくり課) 電話 025-765-5454



特産商品認定式の様子



津南小学校3年生「お気に入りのジオサイトランキング新聞」掲示のお知らせ

津南小学校3年生の総合学習としてジオパーク学習が行われてきました。苗場山麓ジオパークの代表的なジオサイトを巡る計6回の現地調査を経て、たくさんの発見がありました。当ジオパーク推進室より専門員も調査ツアーに同行し、子どもたちがジオサイトについて楽しくわかりやすく学べるようにお手伝いさせていただきました。

ジオパーク学習の集大成として3年生児童全員による「お気に入りのジオサイトランキング新聞」が出来ました。津南町では、「農と縄文の体験実習館なじよもん」「津南町役場」「総合センター」「文化センター」の4か所において11月16日(月)～令和3年2月末まで掲示されます。新聞は約1ヶ月ごとに巡回します。

多くの方にジオサイトの魅力を伝えたい、ジオパークを知ってジオサイトに訪れてほしいという子どもたちの願いの思いが一つ一つの新聞に込められています。各場所に足を運び、ぜひご覧ください。



津南町役場のジオパークコーナー



第2回 苗場山麓ジオパーク研究コンクール 入賞作品ご紹介



山伏山の風穴 津南小学校5年 石沢 創志さん



ぼくらのオススメジオサイト紹介文集
津南小学校3年生の皆さん



仙当城はどういう場所？
栄小学校4年 樋口 四季さん



ジオパーク展望台クエスト
栄小学校4年 保坂 陽太さん

【苗場山麓ジオパーク振興協議会会長賞】山伏山の風穴・仙当城はどういう場所？
【津南町教育町賞】ぼくらのオススメジオサイト紹介文集
【栄村教育町賞】ジオパーク展望台クエスト



第6回 苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級) 7名が合格されました！

第6回苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)を、令和2年11月14日(土)に実施いたしました。3月に実施予定のところ新型コロナウイルス感染症により、やむを得ず延期としていましたが、ようやく実施の運びとなりました。10名の受験希望があり、試験当日は7名が受検し、7名全員が合格されました。地域おこし協力隊からの参入者もあり、現在、認定ガイド会員は77名となりました。コロナ禍における研修やガイド活動が続きますが、ガイドの皆さんのご活躍を期待しております。

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

村山 富雄さん



土器～ジオパークとの出会い（ガイド No.21 村山 富雄さん）

私のジオパークとの出会いは、小学生のころ通学路の途中にあった道尻手遺跡周辺での土器や石器拾いだったと記憶しています。当時は、周辺はどこを掘っても土器が出て、その中で形等の良かった土器をお互いに自慢しあっていたものでした。そんな経験があって、高校3年の時、社会科同会の活動のなかで沖ノ原の遺跡の話を聞き、興味をもち、その場所を知っている友人より案内をしていただき、表面採取をして高校に持ち帰った記憶があります。残念ながらその土器は翌年の冬の高校の火災で散逸してしまいました。



道尻手遺跡発掘調査風景

その後、苗場山麓開発事業の基本計画に携わる中で、沖ノ原遺跡の試掘調査及び発掘調査に、当時、新潟県の地元遺跡調査員の石沢寅治氏及び慶応大学の江坂教授の皆様方の指導の下で参加しました。お二人のご助力で苗場山麓第1地区の早期着工に弾みをつけていただいたと思っています。また、沖ノ原遺跡の発掘成果は、その後の国の史跡指定に結び付いたことは皆様のご存じのとおりです。

その後、苗場山麓第2地区の調査に入り開発地域で当時確認されていた遺跡の全面試掘を行ったのですが、その時、津南町の遺跡の多さと、発掘された遺跡の歴史の長さには驚きました。特に道尻手遺跡周辺は旧石器時代から縄文時代後期まで1万年以上にわたり人々の生活の跡が発見されています。

小学生のころ、たまたま学校の通学路の途中で土器に興味を持ったことで、その後、仕事の関係で携わり、また今ジオパークの案内人としてこの地域の歴史等を皆様にご説明している自分を思うと、いろいろなことに興味を持ち疑問を持つことは、今すぐに自分の役に立たなくても、いずれ自分の人生の中で何らかの役に立つのではないかと思います。なんでも結構です。皆様も地域の疑問・不思議に興味を持ち、何かわからないことがあったらジオパークの活動に参加してみませんか。

きっと何かをつかむことがあると思います。



沖ノ原遺跡発掘の様子 昭和48年



道尻手遺跡 土器一群 撮影：小川 忠博



日本ジオパークネットワーク 第8回 中部ブロック大会

第8回となる日本ジオパークネットワーク中部ブロック大会は、糸魚川ジオパークを開催地として、コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインでの実施となり、苗場山麓ジオパークとしてもZOOMを使用して初めての参加形式でした。11月21日(土)、農と縄文の体験実習館の研修室に認定ガイド5名、事務局2名が集まり、パソコンを3台設置し、プロジェクター投影を行い進行了。まずは、各地域のジオパークが「コロナ禍でのジオパーク活動」について報告し合いました。各ジオパークともコロナの影響により活動の中止、停滞、観光客数の減少がみられ、バーチャルツアーの展開や、野外での徒歩や自転車のガイドツアー、参加者を絞ったマイクロツーリズムの実践など密にならない活動の模索が行われていました。その後、伊豆半島ジオパークと糸魚川ジオパークから生中継でバーチャルツアーがそれぞれ行われました。



記念講演では、京都で町歩きツアーを主催している「まいまい京都」の以倉敬之さんの講演が行われ、身近なものを愛する人による熱いガイドが、人気となりリピーターに繋がっている。そして、ツアーは、タイトルと写真が重要で、現地や内容を知らない人が面白いと思うタイトルが重要と話されました。その後、オンラインでの意見交換が行われ、コロナ禍におけるオンラインのメリット、デメリット、課題などについて話し合い、現地とオンラインのどちらが良いかなど選択を検討する必要があるということとを議論しました。大会終了後は、オンライン懇親会が開かれ、各ジオパークの名産品やジオ商品を紹介し、食べたりしながら交流が行われました。

初めてのオンライン会議で便利なところもありますが、ネット環境や機材の整備といった課題もありました。現地ならではの魅力もあるので、バランスよく現地とオンラインの使い分けが必要と感じました。



突撃しよう!となりのジオ便り～銚子ジオパークからこんにちは～(銚子ジオパーク主任学芸員 岩本 直哉)

銚子ジオパークは、関東の最東端、「逆くの字」の形をしている日本列島の折れ曲がり点に位置しています。銚子は太平洋に突き出した半島地形となっており、日本最大の集水域をほこる利根川の河口で、さらには沖を流れる黒潮はここから日本列島を離れ東進します。

太平洋プレートが沈み込む日本海溝に近い銚子周辺は現在も隆起しています。かつて海底だった場所は押し上げられて平坦な頂上面をもつ台地となっています。この台地が海の波により削られてきた崖が「屏風ヶ浦」です。高さ20-60mの崖が約10kmもつづく壮大な風景を見ることができます。そのほか、海岸には関東平野で最古の地層や中生代の地層が露出し、侵食により様々な景観を見せてくれます。このような隆起と侵食が作り出した景観は銚子ジオパークのみどころの一つです。実はこの景観は「銚子磯めぐり」として江戸時代から人気の観光スポットでした。



屏風ヶ浦

銚子といったら、漁業を思い浮かべるひとも多いのではないのでしょうか。銚子漁港の水揚げ量はなんと9年連続全国1位！(2020年現在)。銚子沖は暖かい黒潮と栄養豊富な親潮がまじわる混合水域の南端に位置します。さらに、利根川からは陸の栄養をたっぷり含んだ水がもたらされます。そんな銚子沖は良好な漁場となっています。豊かな漁場はイルカやクジラの子育ての場でもあり、イルカ・クジラウォッチングも実施されています。銚子の漁業の礎を築いたのは、黒潮にのってやってきた紀州(和歌山県)の移民たち。銚子電鉄の終点でもある「外川(とかわ)地区」は、17世紀の半ばに紀州の崎山次郎右衛門が自費で作りに上げた港とまちです。段丘の緩斜面に形成されたまち並みは、今でも続く漁師まちの面影を残します。

銚子の台地は関東ローム層に覆われています。この広大な土地を利用した農業も盛んで、特に冬季のキャベツが有名です。浅間山北麓ジオパークでは、夏秋にキャベツを作りますが、銚子では10月から5月にかけてキャベツを作ります。沖を黒潮が流れ、半島のため海洋性気候である銚子は、冬季は温暖でほとんど雪が降らず、霜もあまりおりません。この気候を活かし冬季でも路地で野菜作りが可能です。

海に囲まれ、冬はほとんど雪が降らない銚子。銚子では苗場とは違う魅力を堪能できるはずです。ぜひ、一度銚子にお越しください。

